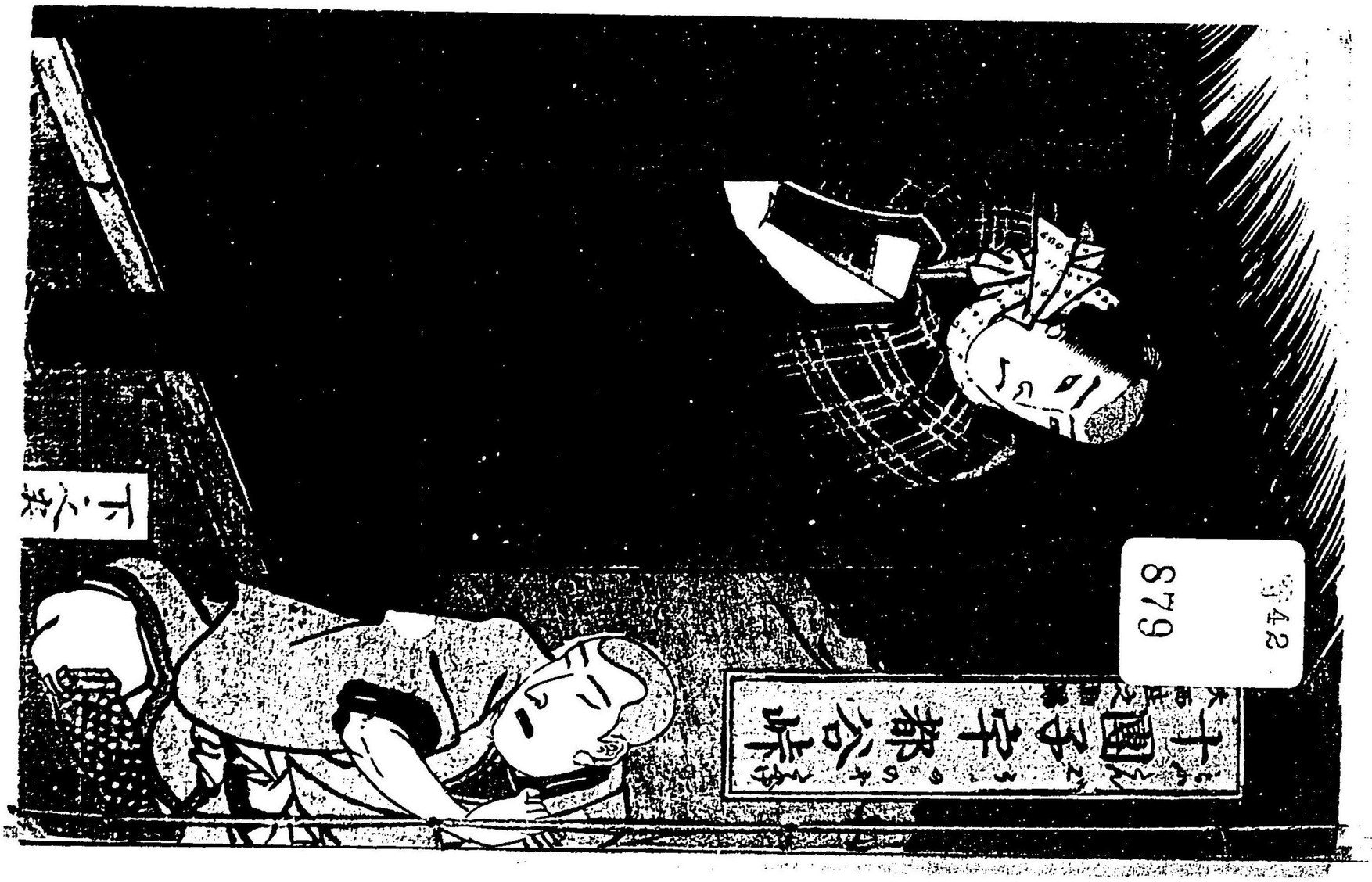


879
342

上ケ
延出せしゑ
の

文賄
重兵工

重兵工

文弥

重兵工

文弥

重兵工

文弥亡昊

▲あらゆることばにたとへ難くものの色ぐ成伝とのべむ

ひとくれて形業の最拙をなげくとり文弥といへる盲人多し

重兵工

急ぐ

古ひのはて

宗井町へ立戻り

彼金子ゆえ笑ふ

危急と一時焼

きしが程なく妻へ

病ひ不臥一日焼

常れば妻を来る

医者の薬と称

不外物なるをどのさてら

験一なくわをへ

ねがはくはなれさるべと▲

重兵エ
女房

重兵工
仁三

提婆の仁三

重兵工

彦三
重兵エ

かきん

いろは

帝之法〜と而毒の今あハ犯こと
故さ故故文ことこと〜て二人ホ毒へ仕ことと
殺せ〜刀ホて我と我ま而故へ実主
殺く二人と押〜ゆ文孫と殺世し居仲
と掠り小きん小白ひ弁の独孫多ユ臣
而れと云つく息ハ殺ホ居者主思歩
帝と文故小きんと掠〜死りと付
故金而と舟毒臣小きんと主
婦ユ殺ゆる又紳丹盗の宅
而ハ者と主求死主の生後ハ
妻の故ゆる故の如く令快世
ゆ人刺殺〜ゆき人々の芸能と▲

柳

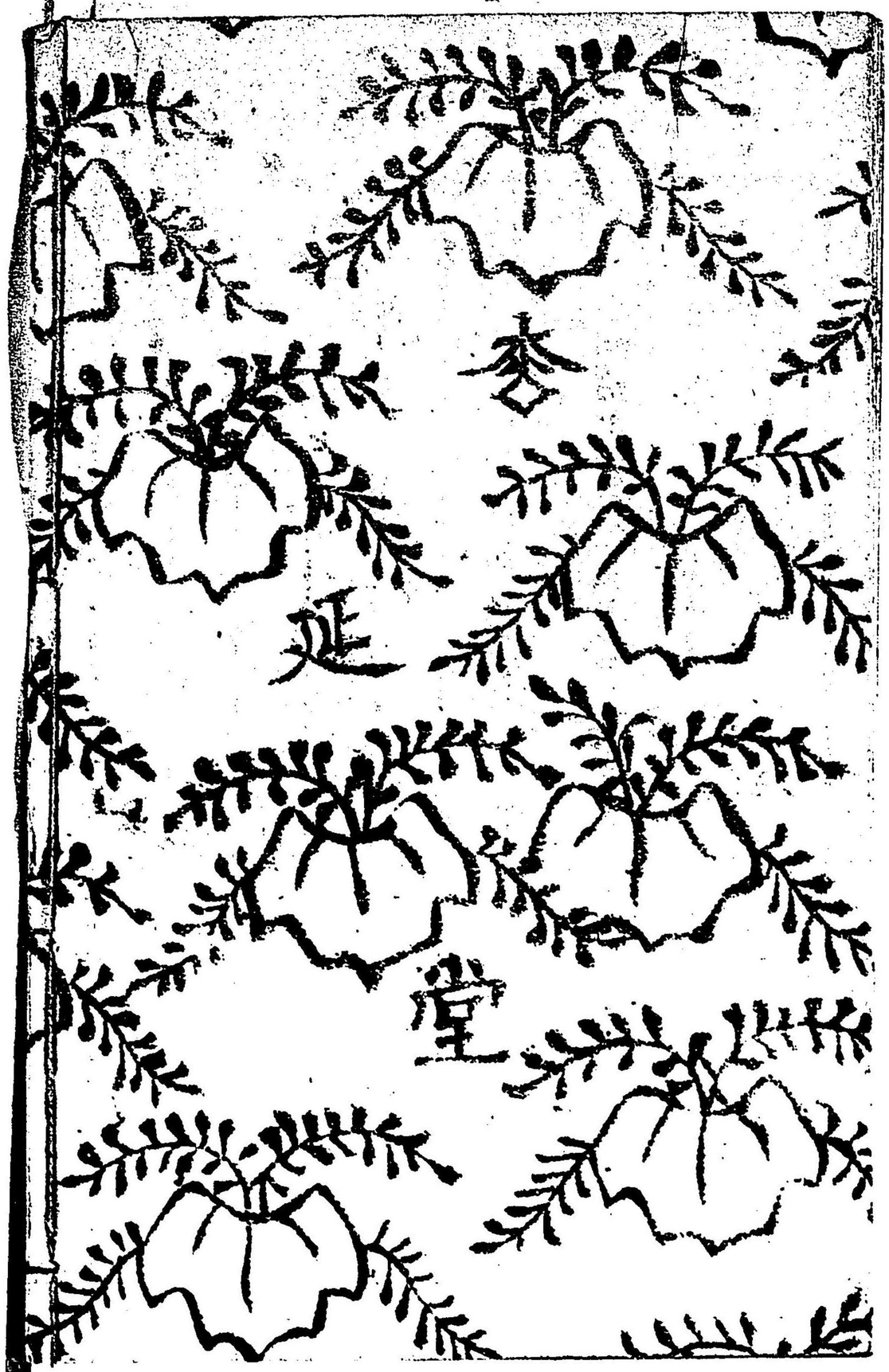
明治十四年七月十一日 届

日本橋区弥島町一番地 編輯兼出版人 大西庄之助

価三銭五厘

明治十四年七月十一日 御届

編輯兼出版人 東京日本橋区弥島町一番地 大西庄之助


延
堂